

経営比較分析表／団体全体（平成30年度決算）

兵庫県 西宮市

【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	47,000	小規模	1	14,113
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	92.5	51	26,089	自治体職員	

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 平成30年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

法定耐用年数を超過した施設の増加による減価償却費の減少に伴って経常費用が減少している一方、責任水量制により給水収益・年間有収水量(料金算定分)は安定しており、経常収益に大きな減少はない。

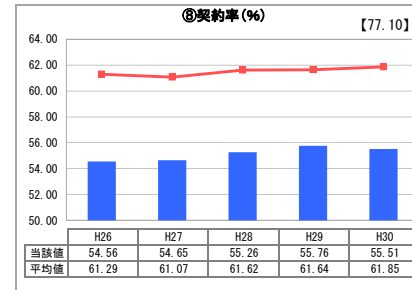
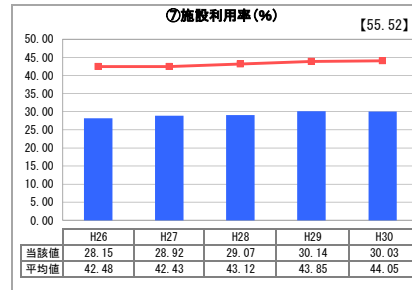
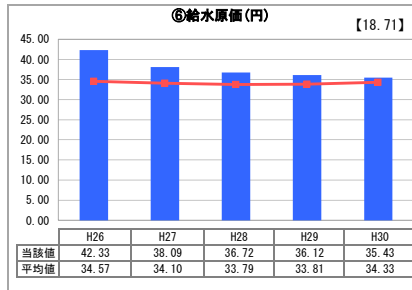
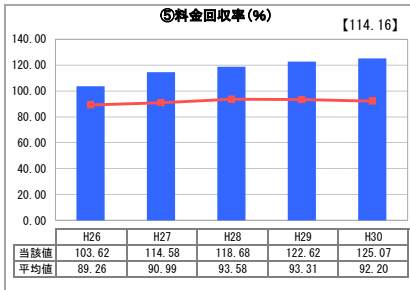
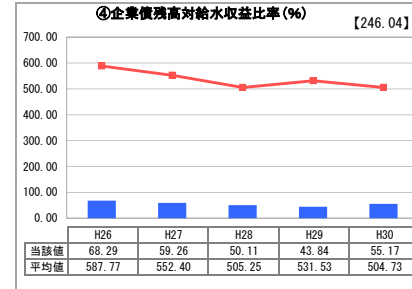
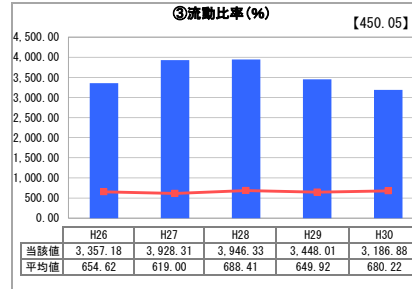
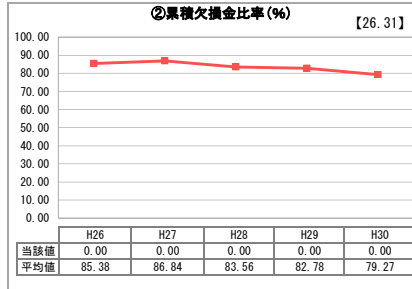
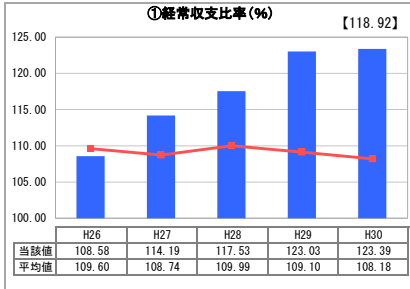
このため、給水原価は低下傾向にあり、平均的な水準となっている。

また、料金回収率・経常収支比率については、継続して100%を上回っており、安定した経営状態となっている。

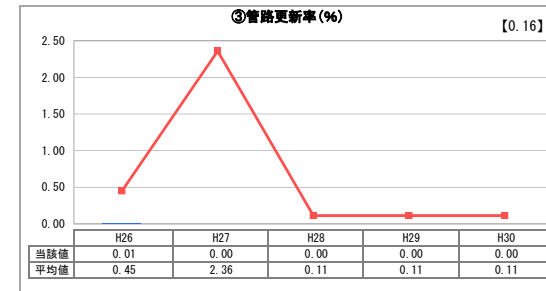
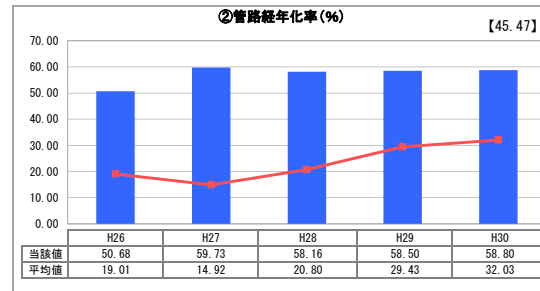
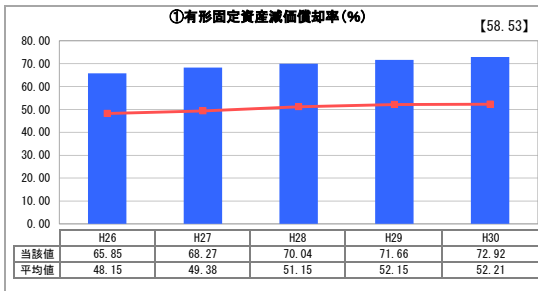
企業債償還高対給水収益比率は、企業債償還が進んでいるため、平均値を大きく下回っているほか、流動比率は非常に高くなっており、今後の大規模更新への備えを進めている。

経営の効率性については、水需要の減少により施設規模が過大になっており、施設利用率・契約率が低くなっているため、大規模更新の際には水需要に応じた施設規模にダウンサイジングを図っていく必要がある。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



全体総括

現在のところ、経営の健全性に問題はないが、令和元年度末に大口事業所の廃止が予定されているなど、長期的には水需要の減少により料金収入の減少が続いていることに加え、大規模更新の際には以降の減価償却費の増加が見込まれるため、今後の経営の健全性は注意が必要である。

また、施設規模が過大になっており、老朽化も進んでいるため、今後の施設整備の方向性が決定次第、大規模更新に着手して、経営の効率性及び老朽化の状況を改善する必要がある。